

平成30年度行政事業レビューシート ( 内閣府 )

<b>事業名</b>	沖縄における鉄軌道等導入課題検討に必要な経費			<b>担当部局庁</b>	内閣府政策統括官(沖縄政策担当)	<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始年度</b>	平成24年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	平成33年度	<b>担当課室</b>	企画担当参事官室	参事官 荒竹 宏之	
<b>会計区分</b>	一般会計						
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>	沖縄振興特別措置法 第91条2項			<b>関係する計画、通知等</b>	沖縄振興基本方針(平成24年5月 内閣総理大臣決定) 沖縄振興計画(平成24年5月 沖縄県)		
<b>主要政策・施策</b>	沖縄振興			<b>主要経費</b>	その他の事項経費		
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	沖縄の交通体系については、自動車への依存度が高く、渋滞による経済的損失など、様々な課題を抱えており、鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システムへの期待感が年々高まっている。 沖縄における鉄軌道の導入については、事業採算性、費用便益比など、様々な課題があるため調査、検討を行うことを目的とする。						
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>	平成24、25、26年度は新たに「鉄軌道等導入課題検討基礎調査」として、コスト縮減策や需要喚起方策等について調査を実施。平成27、28、29年度調査では「鉄軌道等導入課題詳細調査」として、これまでの調査で抽出された課題を踏まえつつ、県民の需要予測モデル等の精緻化等について取り組んだ。 事業主体:内閣府						
<b>実施方法</b>	委託・請負						
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求
	予算 の 状 況	当初予算	196	150	150	100	100
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-
		計	196	150	150	100	100
	執行額		63	66	101		
	執行率(%)		32%	44%	67%		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		32%	44%	67%			
<b>平成30・31年度 予算内訳 (単位:百万円)</b>	歳出予算目		30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由		
	鉄軌道等導入課題 検討詳細調査委託費		100	100			
	計		100	100			

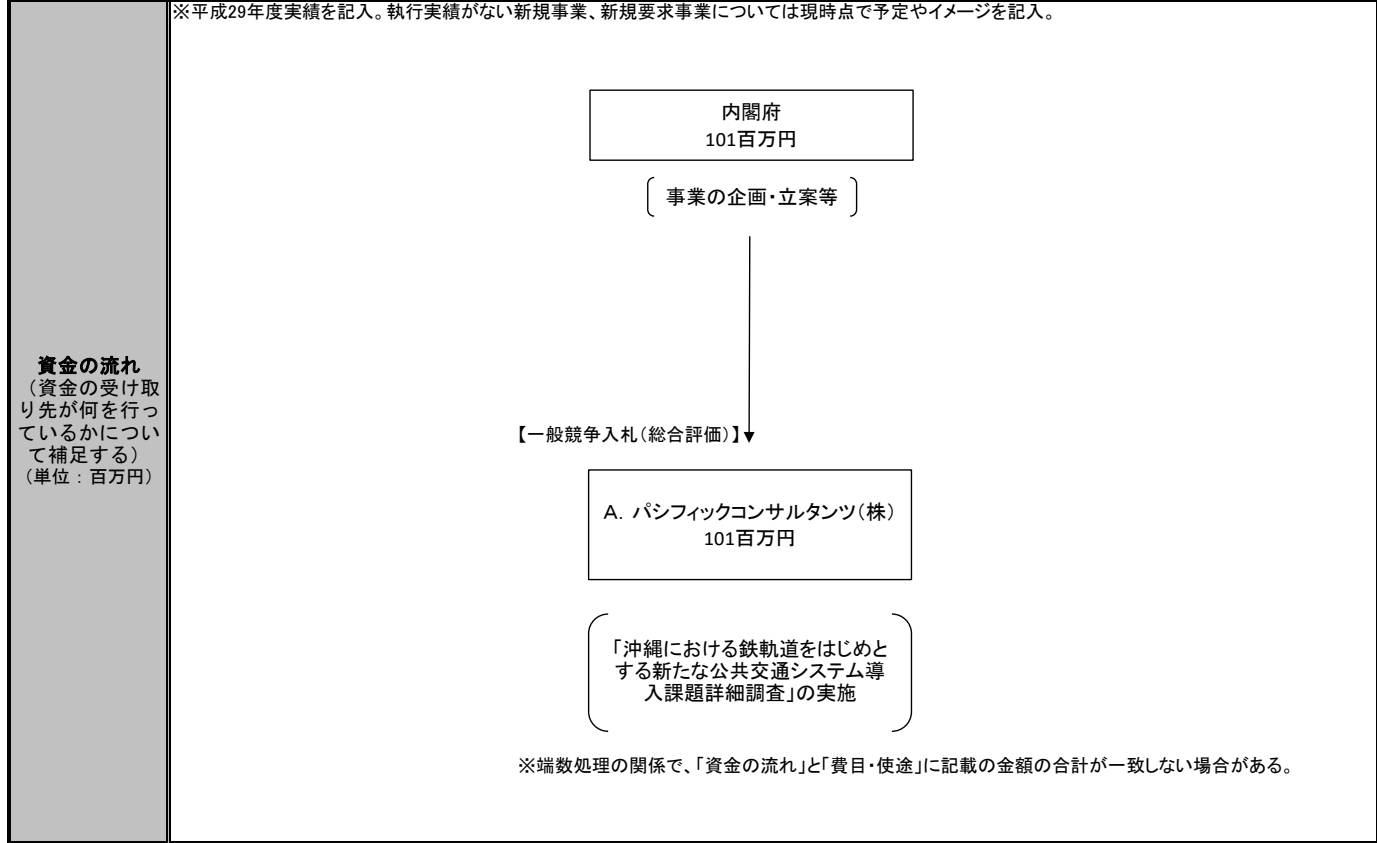
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)									
定量的な成果目標 の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と27～29年度の達成状況・実績					
	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標			新たな公共交通システムの導入に関する課題の整理を行うため、27、28、29年度は「鉄軌道等導入課題詳細調査」の実施及びとりまとめ報告書の作成を行った。					
事業の妥当性を 検証するための代替的な 達成目標及び 実績	代替目標	代替指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	新たな公共交通システムの 導入に関する課題の整理	調査の実施及びとりまとめ 報告書の作成	実績	調査一式	1	1	1	-	-
			目標値	調査一式	1	1	1	-	-
			達成度	%	100	100	100	-	-
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込
定量的に活動指標を示すことは困難であるので、調査 の実施を活動実績とする。			活動実績	調査一式	1	1	1	-	-
			当初見込み	調査一式	1	1	1	1	-
単位当たり コスト	算出根拠			単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込	
	新たな公共交通システムの検討のための調査の実施 のために要した調査費用から単位あたりコストを算出 X: 執行額/Y: 調査数		単位当たり コスト	百万円	63	66	101	-	
			計算式	X/Y	執行額(63 百万円) /新たな公 共交通シ ステムの 検討の ための 調査一式	執行額(66 百万円) /新たな公 共交通シ ステムの 検討の ための 調査一式	執行額 (101百万 円) /新たな公 共交通シ ステムの 検討の ための 調査一式	-	
政策 評価	政策	11. 沖縄政策の推進							
	施策	① 沖縄政策に関する施策の推進							

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	沖縄県の交通体系は、自動車への依存度が高く、渋滞による経済的損失、公共交通の利便性の問題など、様々な問題を抱えている。沖縄県が策定した沖縄振興計画においても、「中南部都市圏・沖縄本島を縦断する鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入に向けた取組を推進」と盛り込まれるなど、県内における新たな公共交通システムへの期待感の高まりがある。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	沖縄振興特別措置法第91条2項により、国及び地方公共団体が調査及び検討を行うよう努めることとされている。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	沖縄振興特別措置法第91条2項により、国及び地方公共団体が調査及び検討を行うよう努めることとされている。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	一般競争入札(総合評価)により委託業者を決定し、競争性を確保している。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	調査の実施にあたっては、前年度の調査結果を踏まえ調査内容を再精査したうえで、一般競争入札(総合評価)により委託業者を決定し、競争性を確保するとともに、効率的な執行に努めた。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	調査の実施にあたっては、前年度の調査結果を踏まえ調査内容を再精査している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	調査の実施にあたっては、前年度の調査結果を踏まえ調査内容を再精査したうえで、一般競争入札(総合評価)により委託業者を決定し、競争性を確保するとともに、効率的な執行に努めたことから結果として不用率が大きくなった。
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	新たな公共交通システムの導入に関する課題を整理するため、調査の実施及びとりまとめ報告書の作成を行っている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	新たな公共交通システムの導入に関する課題を整理するためという目的に即した調査の実施をしている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	成果物においては、広く公表されることにより、特に沖縄県及び市町村において基礎資料として活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	本調査では、前年度までの調査を踏まえ、県民の需要予測モデル等の精緻化等、必要な調査を効率的に実施したところ。平成29年度の調査結果については、昨年度と同様、成果物の幅広い活用のため、内閣府HPIに公表する予定。	
	改善の方向性	平成30年度については、これまでの調査で抽出された諸課題を踏まえ、需要予測の精査等を行い、鉄軌道等の導入課題等について鋭意検討を行いながら、効率的な執行に努めていく。	
外部有識者の所見			
本経費については、その内容が調査分析活動であり、定量的な目標やアウトカムが表現できないという記述は妥当である。本経費は、本経費だけに注目して議論すれば、レビューシートに記載された通りの内容になるかもしれないが、政策体系のより上位から見れば、軌道鉄道等の必要性を検証することを目的としていると解釈することもできる。また、本調査分析の精度は、のちの軌道鉄道等の敷設に際しての有効性や効率性を左右するものともなりうる。そうした観点から本経費を議論することも有意義なのではないだろうか。			
行政事業レビュー推進チームの所見			
現 り 状 通	外部有識者の所見を踏まえ、当該事業について、現状と異なる観点から検証するなど、より一層事業の有効性・効率性・成果について適切かつ的確に検証するべき。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
現 り 状 通	行政事業レビュー推進チームの所見も踏まえ、事業の有効性・効率性・成果について、適切かつ的確な検証に努める。		
備考			

関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度		平成23年度	—	平成24年度	新 24-0005
平成26年度	0053	平成27年度	0059	平成28年度	0052
平成29年度	内閣府 ( 0055 )				

※平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目	A.パシフィックコンサルタンツ(株)		B.		
	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
人件費	調査の実施	38			
その他	一般管理費	35			
直接経費	旅費、会議費、印刷製本費等	28			
計		101	計		0

**支出先上位10者リスト**

A.

支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1 パシフィックコンサルタンツ(株)	8013401001509	沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム導入課題詳細調査	101	一般競争契約 (総合評価)	2		落札率については、予定価格が類推される恐れがあることから未記載